

救急診療における汎用画像参照システム導入報告

秋田県立脳血管研究センター 放射線科診療部 ○佐藤 祐一郎(Sato Yuichiro)
佐藤 洋子 松本 和規 豊嶋 英仁

【はじめに】

平成28年度診療報酬改定において、「脳卒中ケアユニット(SCU)入院医療管理料に関する施設基準」が改訂され、その中で頭部の精細な画像や検査結果を含め診療上必要な情報を直ちに送受信することが可能な場合には神経内科もしくは脳神経外科の経験が3年以上の若手医師が1名で当直可能となった(従来は5年)。当センターでは画像および診療上必要な情報を送受信する目的で汎用画像参照システム「JOIN(アルム社製)」を2016年4月に導入した。JOINの運用について報告する。

【方法】

JOINは医用画像共有システムをクラウド化し、使用者は院外に設置するJOINクラウドサーバーにモバイル端末を用いアクセスし、常にセキュアな環境で患者医用画像を確認し、診療に利用可能なソフトである。本ソフトは2016年1月に中央社会保険医療協議会(中医協)で保険適用が承認され、同年4月に保険収載された。グループ内チャット機能のほか、閲覧画像の拡大・縮小、計測、コントラストなどの操作も可能となっている。セキュリティについては、配信される検査画像は匿名化され、年齢・性別・患者IDのみ参照可能となっている。また、クラウドサーバーへの検査画像の保存期間は、日単位での消去設定が可能で、当センターの場合は90日間の保存設定になっている。JOINへの画像転送業務は放射線技師が担当している。画像転送依頼から、転送完了まで概ね15分程度要す。JOIN導入後の運用実績および運用例について集計した。



Fig.1 JOINの画面展開

【結果】

2016年4月～10月末までの運用実績は20例であった。疾患別内訳は、超急性期脳梗塞例:7例(内t-PA・血栓回収術移行例:5例)、くも膜下出血例:10例、硬膜外血腫例:2例、脳出血例:1例。画像転送依頼時間帯は、18例で休日・夜間帯、2例は平日日勤帯であった。

【考察】

JOIN導入により良かった点としては、専門医が不在の場合であっても、画像を参照しながら連絡が可能となったため、治療方針の迅速な決定と情報共有が可能になった。さらに診療放射線技師もJOINを参照することにより、次の検査の展開が把握可能になり、従来よりも迅速な急性期の画像検査が可能となった。

改善点としては、画像転送依頼から、転送完了まで概ね10分から15分程度要しており、他の画像検査も同時進行のため転送までさらにかかる場合があるため、今後の課題である。

【おわりに】

JOINを運用することにより円滑な治療・検査が可能である。